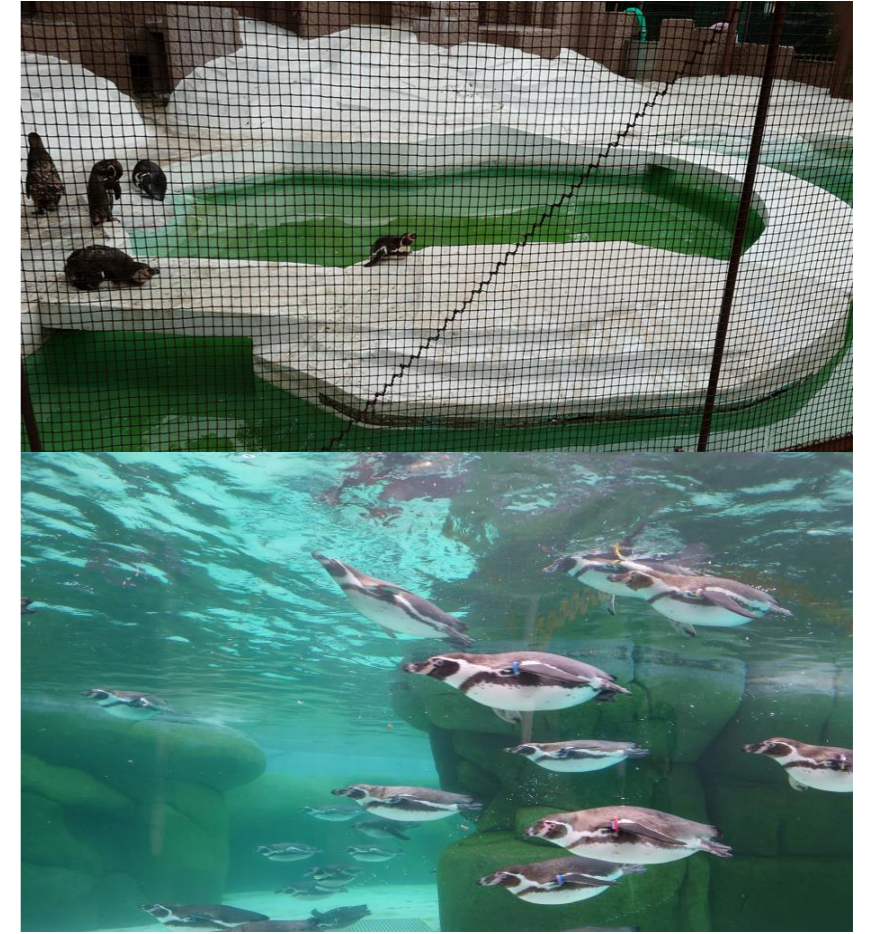
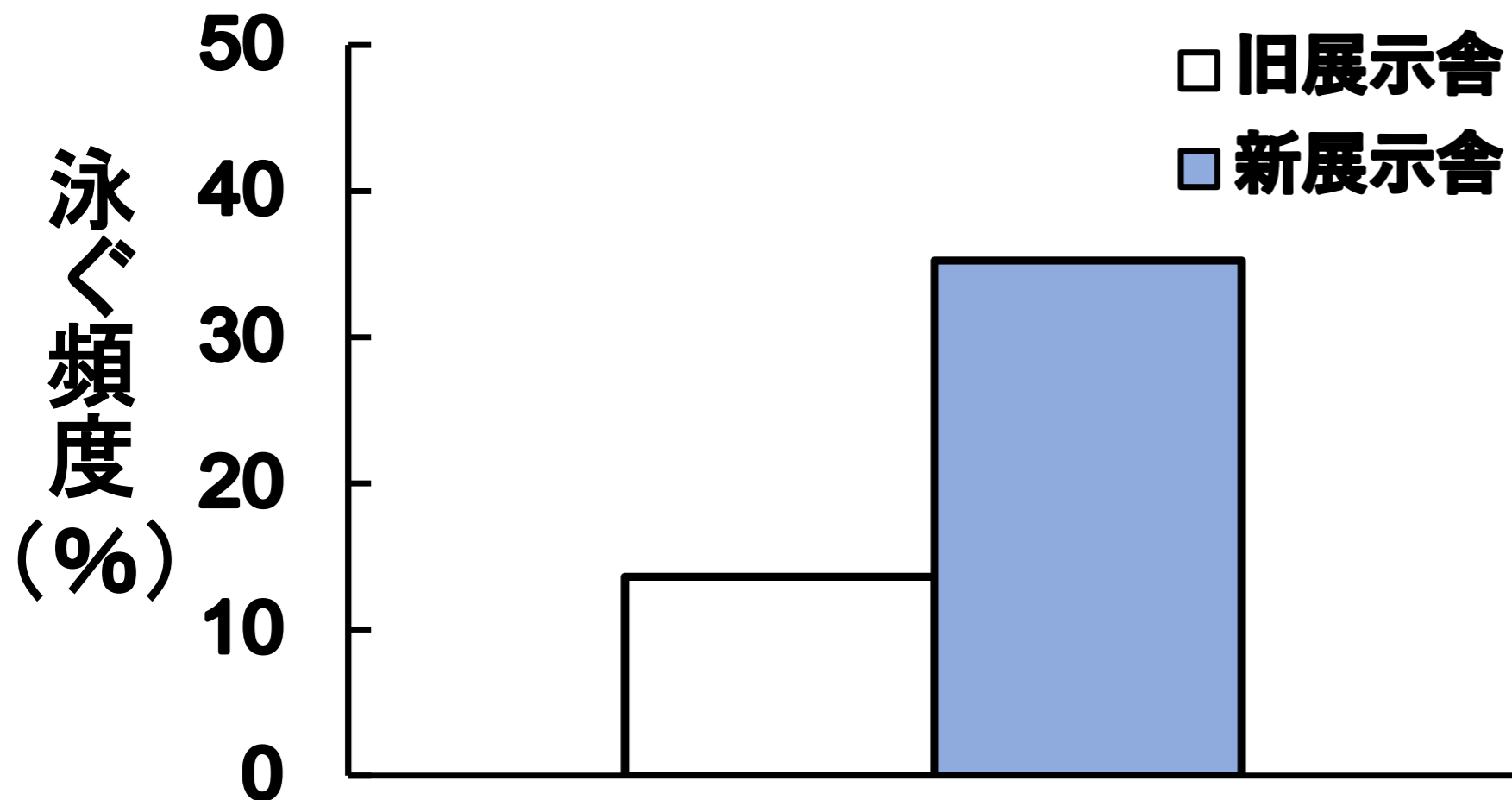


新フンボルトペンギン舎はペンギンと来園者双方にとって良い施設となっている

本研究では天王寺動物園のフンボルトペンギン20羽の行動観察と来園者へのアンケート調査を行った。調査期間は旧ペンギン舎で2022年9月から2023年3月にかけて102時間、新ペンギン舎で2023年6月から2024年4月にかけて107時間であった。新旧展示舎間でその結果を比較し、新展示舎になったことで、フンボルトペンギンが野生下に近い行動をとるようになったのか、また来園者がフンボルトペンギンの生態に関して理解しやすくなったのか調査した。

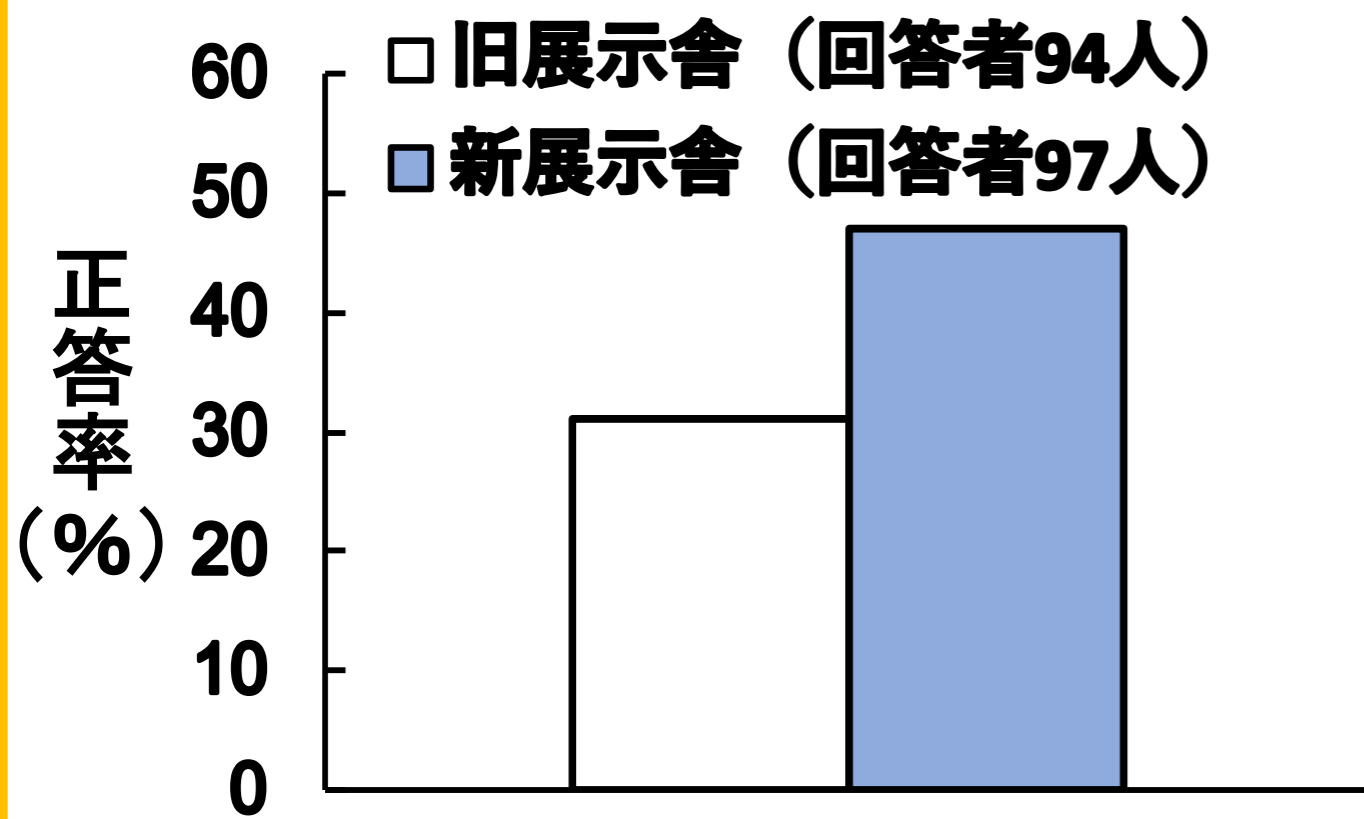
1. ペンギンが野生下の状態に近づいた。



上：旧展示舎 下：新展示舎

新展示舎になり、ペンギンが泳ぐ頻度が高まった。泳ぐ割合が13.6%から35.2%へと増加して、約70%以上の時間を水中で過ごす**野生下の状態に近づいた。**

2. ペンギンの生態について理解しやすい施設になった。



AとB、どちらの写真がフンボルトペンギンの生息地に近いのかを尋ねた。

南極の氷河

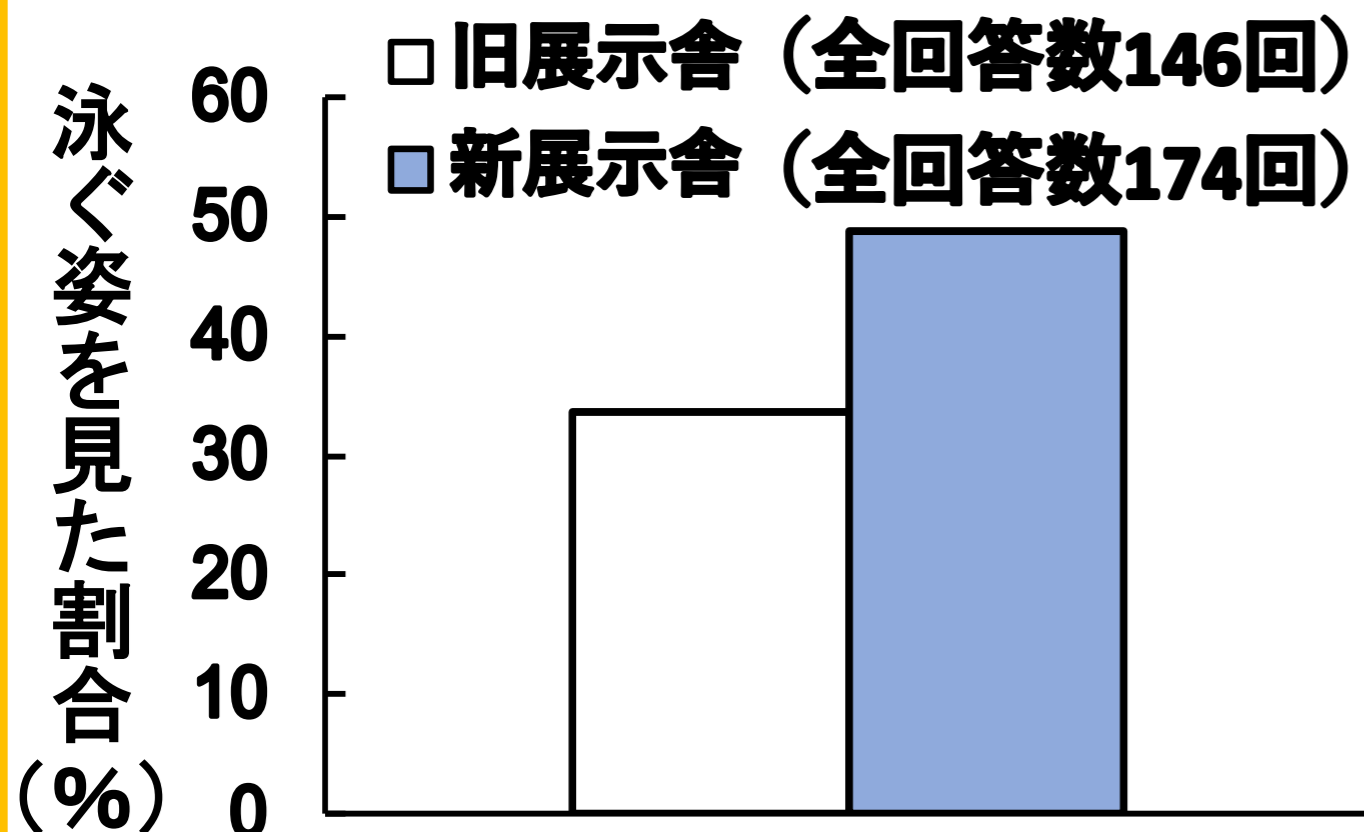
温帯地域



新展示舎になったことで、正解のBを選ぶ来園者が増えた。

29人 (31%) → 46人 (47%)

来園者がフンボルトペンギンの生息地について理解しやすい施設になった。



ペンギンが泳ぐ姿を見た来園者が増えた。

49回 (33.6%) → 85回 (48.9%)

水中での行動が来園者の印象に残りやすくなった。

来園者は野生のフンボルトペンギンが水中で長時間過ごすことを理解しやすくなった。

天王寺動物園の職員の方々、来園者調査に回答下さった皆様のご協力のおかげで本研究を成し遂げることができました。

心より感謝申し上げます。

大阪大学大学院人間科学研究科 今村柊野